

2025年(R7年)



No. 395

ひとはろうしん

だいじ さきそら
(題字: 佐々木碧空)



(ホムアド・シ) http://hitoha-fukushi.com (メルアド・シ) honbu@hitoha-fukushi.com

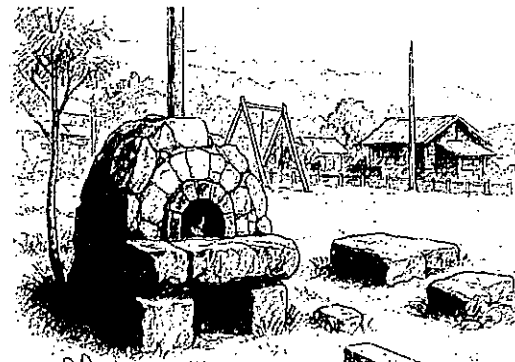
社会福祉法人 ひとは福社会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

ひとはの前のチャランの広場に、今はオブジェとしてひととき存在感を放っている「ピザ窯」と大きな石たち。14年前、長田地域の有志で町内のいろんなところから運んだ岩を積み上げて、約3ヶ月をかけて作った頃のことを思い出します。ピザ窯の土台にはいつの頃からかドングリの実が芽を出し立派な木になっていました。月日の流れを感じます。

先日、このピザ窯と一緒に作った方の奥様とお話をする機会がありました。「主人はね、『ひとはのことなら、できることはやらにゃあいけん』と言って、とんでいきよったんよ。」「ひとはの話はいつもしよてね。よっぽど好きだ。たんじゃろうね。」昨年、他界されたご主人のお話をたくさんしてくださいました。改めて、当時を思い出し胸が熱くなりました。私事ですが、ひとはとともに30年間過ごした中で、長田地域の皆さんとの思い出がいっぱいあります。ふれあいハイキングや人間ホールの打ち上げでは飲み仲間もでき、地域の村芝居グループの時代劇にも参加させて頂きました。まさに地域の一員だと実感しています。

ひとはは40周年を迎えます。もちろん地域の方と共に歩んだ40年だったと思います。過去を振り返り、未来に向かう「温故知新」の年にしたいと思います。

(ひとは工房 伊藤千代子)



あたらしく入ったひとはの仲間たち

スグサ

名前 渡邊 優弥

所属 共同ホーム ひとは

少し自慢できること

くじ運が良いです。
ガラポンが一番
当たります。

名前 益田 千裕

所属 くらむぼん

少し自慢できること

広島 お好み焼き
焼けます

名前 吉野 菊美

所属 ひとはぼんこ

少し自慢できること

花を見るのが好きです。桜から
始まり牡丹を見て回っています。
今年は庭にオダマキが咲きました。

名前 向奥 美弥子

所属 ひとはぼんこ

少し自慢できること

映画を観たり、
本を読んで感動すること

広島市内で ひとはの商品を

紙屋町シャレオ ふれ愛プラザにて ひとはの商品 買えます

広島県立美術館 (中区上機町)にて 縄文あيس、もち麦ど-なっ 買えます

ちゃんこ料理 安芸の国 (東区光町)にて 縄文あيسの縄文もなか 食べられます

ひ

と

は

の

日

々

「心で会話」

今年度から工房の窯へ入られた竹貞心美さん。しゃべることが難しいのですが、私が話したことは理解できており返答はジェスチャーで意思表示をされます。ですがジェスチャーの数がタタすぎて私には覚えきれない時があります。そんな時私は、心美さんに分からないから私に教えてほしい！と正直に言ってみました。心美さんは一生懸命別のジェスチャーで伝えようとしてくれて、私も一生懸命聞くと気が付いたときには二人の会話が成立していました。心で会話するって、こんなことなんだろうなあと思う今日この頃です。

(ひとば工房 増岡 雪枝)

「楽しみ」

毎週木曜日は、広島市内配達の日。

みんな市内配達の日時のランチを楽しみにしています。今日の担当は、内藤直樹さん。車に乗るなり「今日はカレー。いい？」とリクエスト。その後すぐ「見せて」と行く店をスマホで見せてと要求し「いいえ」と行く店が決まる。今日のお店でカツカレーを食べて大満足の内藤さんです。「みんなにメールしてね」と伝えるように内藤さんから希望がありましたので、みなさんにお知らせします！もちろん仕事も頑張っています！！

(ひとば工房 出田 広志)

夕方の食器洗淨バイトに、地域の高校生が来てくれている。食器を下げる時に、渡辺成子さんが彼に

「お前、は？」 「常川です」

「常川さんね、よろしくね」 「はい、よろしくお願ひします」 あとから私に

「常川さんって、ひとばの近くの常川さん？」 と聞いてきた成子さん。

「そうそう」 「なーんか見たことあると思った。」

安心したような納得したような表情。

なんか見たことあるって、小さいことだけど快適に安心して暮らしていくためには大切なことだと思う。成子さんに自己紹介してもらったのを忘れていた！次回のバイトの日に、常川さんに覚えてもらおう。

(食事部 中村京子)

ひとば40周年を前に

今から30年くらい前、卒論テーマがまちづくりのグループ「過疎を逆手に取る会」だったので、そのつながりのイベントがあるといういろいろな所に参加していました。その頃のひとば作業所では、ジャズピアニストとその仲間たちのコンサートやパントマイムなど、いろいろなイベントを開催していました。私が行くと、さららのみんなは帰った後で、開始時間には地域の方が続々と集まってきて、一緒に生のステージを楽しみました。その後の打ち上げにも参加し、地域の方々と楽しい時間も過ごしました。ひとば作業所は町のおもしろい人達が集まる場所という印象でした。

1年前から縁あってあっぱれ働くことになり、新人研修で生前の文尚さんがひとば福祉会の理念の話をするビデオを見て、私はハッとしました。そこには何度も「地域づくり」という言葉が出てきました。私が見てきたのはホンモノの地域づくりでした！おもしろそう、楽しいと人が集まってきて、次第に顔見知りになり、想いを交わし合う。人と人、想いと想いがつながっていく。人が地域が元気になって、想いや夢がかたちになっていく。あのときのイベントと地域づくりという言葉がきっかけで、ひとばが大切にしていることが腑に落ちました。そんなひとばの原点を、私は私なりの地域づくりをやっていくことで、つなげていきたいと思っています。

(富永 美香)

今月号から編集委員会に参加しています。会議初日、写真を選ばず時間があるって、懐かしい写真をいっぱい目にした私は「うわー！懐かしい。あんなときは、こんなことがあって、あんなことがあって」と一気に時間が逆戻り。編集どころではなくなり、仲間の写真に見入ってしまいました。実は、30年以上前からひとばのみなさんを知っているのです。次回からはちゃんと編集に励みます。(笑)

(内藤 麻妃)